

統一した看護を目指して

— 新人教育用にビデオを作製して —

ICU・救急部：発表者 根井きぬ子

下村 陽子・草深 仁子・三宅千代子・西山 隆子

上村 治子・宮本 夕香・柳沢 早苗・二木 朗江

I はじめに

当 ICU は、救急部を併設し Bed 数 5 床を有している。看護婦数は 18 名で、毎年 4 月には 3～5 名のメンバーの入れかえがある。

新メンバーがチームのメンバーとして看護活動を正確に実践できるよう、また、チーム全体として看護力を低下させない為に、オリエンテーションを行っている。特に ICU では重症患者の看護にあたる為、個人の技術・能力が患者に及ぼす影響が大きい。

また、ME 機器をはじめ、高度な技術を要求されるので、オリエンテーションを充実させることは、重要な事と考える。

今までのオリエンテーションは、教育係が中心にスケジュールを立て、技術面での指導は、当日のリーダーまたはメンバーが担当していた。

具体的な指導内容は、担当者の独自性にまかせられ、統一されない部分も多かった。

そこで、誰が指導しても内容が一定であるように、ビデオを活用した新人教育を試みた結果、効果が得られたので報告する。

II 方法

1. ビデオを作製し、新人オリエンテーションに活用する。

- 1) ビデオ項目を検討
- 2) シナリオの作成
- 3) 撮影
- 4) 試写会および検討
- 5) 新人オリエンテーションに活用

2. アンケート調査

ビデオを新人オリエンテーションに使用してどうであったか、新人を含めたメンバー全員に行う。

III 結果

1. 新人オリエンテーション用にビデオを作製し使用した。

- A-Vライン固定法
- Aライン採血法
- Aラインモニター法
- カウンターショック
- 気管内吸引法

2. アンケート調査の結果（ICUメンバー18名に配布。17名より回収）

[利点]

- 1) 視覚に訴えられるので、わかりやすい。
- 2) 統一された手技を短時間で徹底することができる。
- 3) 自分の手技の確認ができる。
- 4) 何度も繰り返し見られる。

[欠点]

- 1) 誤った情報が伝達される恐れがある。
- 2) 患者の協力を得なければならない内容のものもある。

IV 考察

今迄、技術面での具体的指導については、担当者の独自性にまかされていた新人教育を、統一した内容にしたいという反省より、ビデオを作製し施行してみた。

ビデオ作製にあたっては、自分達でシナリオ作成・撮影を行うことにより、日頃なにげなく行っている行為の意義づけや、統一されていない手技などにも気づき、新人だけでなく、メンバー全員の技術の確認になった。

看護婦のように変則的な勤務では、直接メンバー全員で同じものを見る事は不可能であるが、ビデオは同一のものを自分の都合のよい時に見れる為、情報の伝達として有意義であると考え。

また、何度も繰り返し見れるので、いつでも学習できるという利点もある。

ただし、誤った情報が普及されてしまう危険性のあることも忘れてはならない。

新人からみると、文章にすると長くなり理解しにくい事も、視覚に訴えられるので頭に入りやすい。例えば、気管内吸引法などの指導にあたっては、今迄、手技の方法・注意点などを説明し、指導者がデモンストレーションしたあと、新人が実施する。という方法をとっていた。今回、ビデオを事前に見ることにより、ポイントも頭に入りやすく、手技への不安が軽くなることでスムーズに実施できた。

その上、Bed サイドで患者をとり囲んで実習しなくてもよい為、患者の負担の軽減になったと思われる。

以上のことより、新人オリエンテーションにビデオを活用する事は、有効であると考え。

看護技術の統一の為に、今後もビデオを活用してゆきたい、という意見が多かったので、内容を検討し、ビデオの項目を増やしていく方針である。

V 結語

1. メンバー全員の技術の統一になる。
2. 日頃行っている行為の意義づけと確認ができる。
3. 統一した指導ができる。
4. 視覚に訴えるので理解しやすい。
5. 繰り返し学習ができる。
6. 患者の負担が少ない。

この研究に御協力くださった方々に感謝いたします。